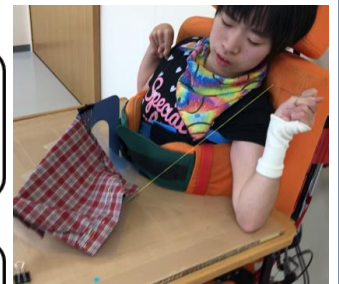




## 手指活動に関する工夫～補助具の活用～

### 一人でしつけ縫い作業に取り組む指導

両手をうまく使うことが難しい生徒が、作業学習（縫製・紙工班）で「しつけ縫い」の作業をするために、次の図のように実態把握をしました。



#### <身体の動き>

右手にまひがあり、布を支える手が使えない状態で、左手の親指、人差し指、中指を対向させて針を持つ。

#### <環境の把握>

眼鏡をかけるまでではないが、近視及び角度によって目標物を認知できない場合がある。集中して針を刺す印（チャコペン、シール）を探そうとする。

#### <身体の動き>

・布が固定されていれば、印を探して針を刺そうとすることができる。  
・針の先を見つけて、針を抜くことができる。

#### <コミュニケーション>

日常会話において不自由しない。具体的な指示に対して理解できる。自分から気づいて依頼や質問ができる。

教師が布の角度や向きを調整したり、指差ししたりすることで「しつけ縫い」を遂行することはできるが、布が固定されていたり、目印があれば一人で「しつけ縫い」に取り組むことができるのではないかと考え、布を吊るす形で固定する「しつけ縫い補助具」を導入しました。（※筑波大学特別支援センターホームページ掲載教具を参考）上達すれば片手での針刺し、針抜き、布の方向転換の動作でしつけ縫いを進めることができます。

「しつけ縫い補助具」により、次の目標をもって作業学習に取り組んでいます。

- ・チャコペンの丸印を探して針を刺す。
- ・針の先を見つけて針を抜く。
- ・安全ピン(留め具解除したもの)を一人ではずす。
- ・「～ます」等の丁寧語で依頼をする。



(材料)・トライウォール(3層強化ダンボール)

- ・ブックスタンド
- ・クリップ(中と大※布により選択)
- ・布テープ、養生テープ
- ・机上くけ台



- ・布をピンと張るように、ブックスタンドとクリップ、机上くけ台で固定。
- ・布左手側は目印付近に一人で刺して、反対側から一人で抜く(本生徒近眼のため、針を刺す場所を指差して知らせる支援必要)。
- ・布右手側は布をひねって、刺し場所を示し、支援者が持ってひねった状態を保つ必要あり。

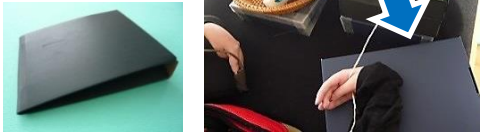


外部専門家連携指導を活用し、布の固定をより強めるためにクリアファイルを入れる等、作業療法士のアドバイスを加えたことで、生徒の縫う技術もめきめき上達中です。

# 実践紹介⑥ 中学部 自立活動 (自立活動を主としたグループ)

わずかな手指の動きを生かして活動する生徒の取組です。Aさんは、少しずつゆっくりと、腕を5cm程度手前に引くように動かすことができます。この動きを生かして活動する場合の、ちょっとした工夫についてご紹介します

腕の動きがスムーズになるように、テーブルと腕の間に少し傾斜の付いた滑りのよい台を置きます。



## 【楽器の演奏】

シロフォンを高低差を付けて置きます。Aさんが紐を引くとストッパーが外れ、ビー玉が転がってきれいな音が流れます。



## 【流れ星の操作】

プラネタリウムのお店を開きました。Aさんの係は「流れ星を流す」こと。



①紐を引く。

### 拡大

紐を引くと、磁石のストッパーが外れ、星が流れる仕組み。



### 拡大

Aさんの力加減を考慮し、磁石にカバーをして磁力を弱めた。



②星が矢印方向に流れる。

Aさんの力が発揮できるように紐の長さの調節をしています。流れ星が流れると、お客さんが拍手をして喜んでくれ、Aさんも嬉しそうでした。

※上記のほか、スイッチ教材を使用して朝の会の進行（パワーポイント）なども

行っています。また、どの活動でも緊張を緩めるマッサージなどを行っています。

## 教育専門監のコーナー

社会的自立や職業的自立そして自己実現を果たしていく力を育てる秋田きらりのキャリア教育

### 【授業づくりのキーワードは「できる」】

- ◆「できる」を見る（把握する）。
- ◆「できる」を大切に活動を設定する。
- ◆「できる」を生かした指導の手立てを工夫する。
- ◆「できる」状況をつくる。

### 【「できた!」をほめる】

- ◆「できた!」は、「自信」を育みます。
- ◆ほめられることは、「喜び」につながります。
- ◆自信と喜びは、次への「意欲」を引き出します。

### 【大切なことは、「子ども主体」】

- ◆「できる」状況をつくり（＝成功体験を豊富にし）、「できた」という満足感や達成感を味わうことを通して、「生き生きと」活動に取り組む意欲や姿勢を育てる。

参考：「各教科等を合わせた指導の充実」東京都教育委員会発行

### 【「役割」のある学習】

児童・生徒一人一人が学校生活において精一杯活動できるように、秋田きらりでは、一人一人の「できる」を大事に、学習を進めています。さらに、一人一人が力を発揮し、主体的に取り組むだけではなく、集団全体が共同して学習に取り組めるよう、集団の中で個々の「役割」を明確にし、学習を進めています。

中学部の自立活動や高等部の作業学習は、自分のできる方法で、できることに取り組み、「役割」を果たすことで、「できた!」という意欲や達成感とともに、責任感や仲間と協力しようとする意識を育てる実践です。そのために、一人一人の「できる」を大切に授業づくりと、育てたい力に応じた「役割」の設定を心掛けています。

〈文責：二階堂 悟〉

◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部主任 佐藤 忠浩

住所：〒010-1409 秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

